

'71

会報



THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 601 号

1971.5.4 (火)

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや

事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ☎ 5775

四つのテスト

—言行はこれに照してから—

1. 真実か、どうか
is it the truth?
2. みんなに公平か
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか
will it build goodwill and
better friendships?
4. みんなのためになるかどうか
will it be beneficial to all
concerned?

◁ 隔りを取り除こう ▷

出席報告

本日の出席	会 員 数	61名
	出 席 数	41名
	出 席 率	67.21%

欠 席 者 阿宗君、荒明君、張君、早坂(徳)君、五十嵐(一)君、海東君、黒谷君、小花君、金野君、嶺岸君、三井(徹)君、新穂君、齋藤(信)君、佐藤(伊)君、笹原君、谷口君、佐々木君、富樫君、篠原君、市川君

前回の出席	前回出席率	66.66%
	修正出席数	51名
	確定出席率	85.00%

マークアップ

阿宗君—新庄RC
阿部(襄)君—余目RC
阿部(公)君、長谷川(悦)君、金井君、嶺岸君、佐藤(昇)君、佐藤(忠)君、新穂君
—鶴岡西RC
石黒君、齋藤(信)君
—温海RC

ビジター 高橋剛君—東京城北RC
五十嵐卓三君、原田行雄君、帯谷義雄君、羽根田正吉君
—鶴岡西RC

一ヶ年皆出席 長谷川悦郎君

スマイル 金井勝助君

創業30周年を記念して

笹原桂一君

最上RC主催ゴルフ大会優勝

会員誕生

阿部公一君、橋浦勝久君、金井勝助君、小花盛雄君、三浦悌三君、市川輝雄君

奥様誕生

石黒常様、加藤静江様、黒谷貞子様、篠原多美枝様、上野和子様

4月100%出席 40名

阿宗君、阿部(公)君、阿部(襄)君、安藤君、張君、長谷川(悦)君、早坂(源)君、飯白君、石黒君、五十嵐(三)君、五十嵐(伊)君、五十嵐(八)君、海東君、金井君、上林君、小花君、小池君、今間君、嶺岸君、三井(徹)君、三井(賢)君、三井(健)君、岩網君、中山君、小野寺君、大川君、廖君、齋藤(得)君、佐藤(昇)君、佐藤(忠)君、鈴木(善)君、新穂君、鈴木(弥)君、篠原君、高橋君、手塚君、富樫君、上野君、鷲田君、藪田君

会長報告

去る4月29日鹿児島西ロータリークラブの鮫島さん一行がお出になり、マイクロバスで白糸の滝、羽黒山の手向の村、チェーリップ畑、オケサ・オパコラインなどに行きました。

会報はご家族みんなで読ましましょう

帰りには、たやみ旅館で懇談会を行い、大変盛会で、その詳細については、朝から帰られるまで引続き一緒にしていたいた安藤さんから報告していただきます。

次に2日に最上ロータリークラブのチャーターナイトがあり、その前日に鳴子カントリーにおいてゴルフ大会がありました。当クラブからは6名出席し全員トロフィーを頂戴して参りました。優勝が笹原桂一君、1位が高橋正太郎君、8位新穂君、9位藪田君、佐藤正君、阿宗文雄君、三井健君などでありました。阿宗君は20位で飛び賞でありました。

それから、例会の前に定例理事会を開き、この席で決まりましたことを申し上げます。他クラブからいただいた記念品の処分について青年センターの和室に、鹿兒島西ロータリークラブからいただいた壺をかざるために、ご寄贈したいと思っておりますので皆様のご了承をお願いします。

次に、この間いただいた屋久杉の工芸品はこれを創立以来引続き例会場を行ってきたひさごやさんに差上げることを決めましたのでご承認をお願いします。

それから盲学校の生徒を水族館とプラネタリウムに招待する行事は、昨年に引続き是非やっていただきたいという希望に応え、阿部先生のお力添えを借りて実施したいと存じます。

今度オーストラリアの世界大会に出席される張先生ご夫妻、三井先生ご夫妻、嶺岸さん小花先生をオーストラリアに送るわけですが壮行会はやらずに帰ってから、帰朝の歓迎会とファイアサイドミーティング、を同時に開催したいと思っております。この計画は親睦委員会でご企画をお願いします。オーストラリアに行くときの会長のメッセージとして極めて簡単なものですが、ストウエルロータリークラブの方にお上げしたいと思います。張先生から英訳していただき持参をお願いします。

それから、ロータリー財団の奨学生である頼俊雄君から書面が参っておりますので読み上げます。

拝啓、桜花の節益々御清栄の段慶賀の至りに存じます。鶴岡にいた頃大変お世話になりました。どうも有難うございました。

お蔭様にて米山奨学生になりました、唯今の世話クラブは仙台北ロータリークラブです。新しい環境に馴れるまで可成り長時間が必要ですが、お蔭様でいまやっとなつてきて軌道にのりました。これから一層努力いたしたいと存じますので、何卒宜敷くご鞭撻をお願い申し上げます。では鶴

岡ロータリークラブの益々のご発展と皆様

のご健康をお祈りいたします。

となっております。

それから当クラブの元会員粕川さんから、挨拶状が参っております。即ち

拝啓、春風飜蕩の候となり、会員の皆様には益々御健祥のこととお慶び申し上げます。

さて私事、短い乍らも思い出の多い鶴岡を去り、今月10日に新任地に着任致しました。

鶴岡支店在動中は、公私共に多大の御厚情を賜り、お蔭をもちまして浅学非才の私が2年間というもの大過なく自己の職責を遂行できましたのも、偏へに皆様方のご支援の賜と深謝致しております。

特に赴任当時は不案内の土地でもあり誰しもが戸惑いするものでありますが、私の場合幸にも皆様方の御厚意により転入と同時に御地ロータリークラブに加入させて頂きましたので、会員の皆様を始め、数々の方とも比較的スムーズに交友ができ、当初から何等憶することもなく楽しく過ごさせて戴きました事の恩義と温い思い出は、終生忘れることはないと思存じます。

私はロータリアンとして御地が始めての経験であるだけに、ロータリーの意義とその尊さをしみじみ痛感した次第であります。どうぞ先輩諸氏の築かれた10年の基礎の土台として、今後益々発展せられますよう御活躍のほどご期待申し上げますとともに、今後とも末永く御交誼、御指導を賜りますようお願い致します。

尚、拙宅は日大山形高校附近の閑静な処に在りますので御来形の節は是非お立寄り下さいませよう、お待ち申しております。

時節柄折角御自愛の程をお祈り申し上げます。

鶴岡ロータリークラブの皆様

粕川文男

(山形市鳥居ヶ丘16—19)

鹿兒島西RC鮫島氏歓迎実施報告

安藤定助君

前回申し上げた歓迎のスケジュールは、時間的都合その他で多少変更のやむなきに至りましたが、皆様の御了解を得て大変にぎにぎしく昼の部も夜の部も御歓迎出来たことを皆様と共に喜びたいと存じます。

最初12時に商工会議所前を出発し羽黒に出で、羽黒に参り杉並木を觀賞しながら斎館につき、精進料理というような計画を樹てました。併し当日雨のこともあり、鮫島さんからの要望もあって予定を変更し、その希望に基

づいて、七日町清正公のところにある忠広公の墓所の案内し、それから草薙にまり白糸の滝の真前に出来たきれいなパーラーに席をとり昼食をともにしながら一時間十分に最上川と白糸の滝を觀賞し大変喜ばれました。

それから善宝寺に参り、そこで一服をしながら草餅や栃餅を差し上げて休息をとり、それから農事試験場のチューリップ畑を觀賞しました。小雨でしたが、却って雨にぬれたチューリップの花も一きわ色鮮かに咲きはこり大変よろこばれました。鹿児島にはチューリップは少いそうで、あんな沢山のしかも綺麗なチューリップをみたのははじめてだそうです。

次いで湯の浜から加茂、油戸、由良をぬけて記念写真などをとるなどし、暮坪の立岩に至りそこで引返し、終始喜ばれて湯田川温泉のたみや旅館に帰館していただきました。

この間一行に参加された石井貞吉さんが機転をきかされて、車中14人乗りの新しいマイタクロバスの中で、庄内民謡の口火をきいていただいたのがきっかけとなり、自然的に廻り番で皆が庄内民謡を披露したり、あるいはこちらの方言を披露したりしたので、鮫島さんはよくメモされておりました。夜は6時半から賑々しく急しい中を、10余名の会員が集っていたいただき、汽車の時間の都合で、興をなかばにして切ったというような双方とも名残り尽きない歓談を展開しました。

なお8月には、野地さんと鮫島さんが鹿児島庄内会の一行程と是非からとのこと、若い学生層の人達も連れてきたいなどの意図も示されました。

そんな訳で今回の歓迎は、拙述を尊び、いささか手前味噌の感なきしもがなではありませんが、皆様の御協力により大変意味深く、向う様のお喜びを得てお帰りねがった次第であります。御協力を感謝いたします。

高橋剛氏の紹介 小野寺清君

これからスピーチをしていただく高橋剛先生について簡単に御紹介申し上げます。

高橋先生は酒田市の出身で、酒田中学から国立東京美術学校の彫塑科出身で、その後ずっと専門の彫刻に専念されています。日展の特選3回、文部省買上げ1回、現在は日展の審査員をやられており、日本彫塑界の權威として著名であります。現在また日本彫塑会の運営委員になられており、なお東京家政大学の教授で今年の4月から被服学科の学部長の職を奉じております。また斎藤茂吉文化賞の受賞者でもあり、種々活躍されている方です。

そういった反面磯釣の大家であって、釣の話をかかされると、我々は非常に楽しい時を

過ごすのですが、特にその名釣場は飽海郡の県境、象潟吹浦方面の魚の居場所はちゃんと解っているようであります。そんな訳で多趣味な方でこれから有益なお話を承ることにいたします。

田沢稲舟のことなど 高橋 剛氏

突然鶴岡に参り、昨晚鶴岡ホテルに泊って今日ここでロータリーの例会があると承り、ミーティングしました。私のロータリーの所属は東京の城北クラブであります。

今日鶴岡に参ったのは、田沢稲舟という鶴岡の産んだ明治の女流作家の像を、昨年の秋以来当地の尾形六郎兵工さん（鶴岡文化懇談会という会があって）から依頼を受けて製作したからであります。

殊に郷里のことを頼まれるときには、いつも予算がないということで、我々はしぼり出される訳ですが、今回もその例にもれず、郷里出身のロータリアンの身であり郷里のためにお役に立つのであればお手伝いしようということで引受けたのであります。

その後漸く完成の運びとなり、今日午後3時から、その除幕式が内川のほとりで催されることになりました。それが終って午後4時から稲舟を偲ぶ会というのが新茶屋でござります。稲舟のことについては、ここにお集りの方々の多くが御存じと思いますが、私の感じた稲舟というのを2〜3お話しし、時間がありましたら、芸術のお話しでも申し上げたいと思います。

稲舟のことについて樋口が伺ったのはごく最近であります。明治の樋口一葉などと同じ時代に鶴岡から立派な女流作家が出たということは、一つの郷里の誇であって、私共が大いに自慢してもいいことではないかと思えます。

稲舟のことについては、樋口一葉文学全集の中の巻末に稲舟の年譜がのっており、同時に白バラという稲舟の小説の全文が掲載されております。私はいつの場合にも、いろんな像をたのまれたりしますと、やはりその肖像とか銅像というものは、その人となりや我々をよくつかんでとりかからねばならぬのです。像の形そのものよりも、稲舟のもっている感じが像の中に少しでも具現出来れば誠にもって銘すべきで、作像に入る前には、いろいろそういった資料を集めたり、本を読んでもらったりしております。

白バラを通読して感じたことは、稲舟という人は鶴岡のような封建的などに生れて而も革新的な思想をもった女性であるという風に感じます。

今日我々の世界ではウーマンリブという風に女性が非常に強くなっておりますが、当時女性が職業婦人になるなどということは、大

変な革新であったと思うのであります。

稲舟の過去、或は小説をみますと、稲舟という人は決して家庭の主婦の立場にあることを希ってはいないようであります。その場合も女が社会に出て男と同じように働けるということを希ったということは、あの小説をみるとよくわかります。

それから白バラには、明治の鹿鳴館とか貴族社会のいろいろな情景が画れておりますが、その墮落した鹿鳴館思想に対する稲舟の反発というものは、非常によく書れております。ですから今日若い女性をはじめ婦人方が皆働くということを今ではとっても不思議に思っていないようですが、そもそもの発端は稲舟にあったのではないかという風に考えます。それで稲舟という女は、今日の女性上位と言われる時代の基礎をつくったのは稲舟の思想に合っているのではないかと私は考えております。

稲舟は、当時の田沢という医師の長女に産れ、本名はゞきん、とのことです。それで稲舟は養子を迎えるということで、むこさん候補を2名同家にかかえて養っていたにも係らず、彼女は彼等に向いに見向きもしない。そして、彼女はあこがれて今の共立女子(専門)学校に入学するのです。そして東京で文学に憧れて、文学修業に入る訳ですが、たまたまそのときに、みさという有名な詩人と結婚して、1年にして結婚に破れ郷里に帰ったのです。その後文筆生活に入るわけですが、その間のことについては当地にお出でになる工藤先生等が、酒田から出ている豆本に書いておられます。また笹原さんも田沢稲舟に対しては精しい識見をもっておられます。

こうした事があって稲舟は23才の若さで、亡くなったのですが、亡くなる前の稲舟のものが工藤さんの書いている一節の中にございます。秋の名月の日に月見の会のために東京からお客を招んで、月見の宴を張る情景です。その時に稲舟が白い花を胸に挿して庭に出る。その時の稲舟の美さというものは、鬼気せまるようなものであるという風に記してあります。

私は唯一枚しかなかった写真を土台としてつくらせていただきましたが、正に我々がその写真をみて感じることは、絶世の美人というものは、田沢稲舟のことではないかと思うのであります。そこで私は田沢稲舟の写真とは多少趣がちがうかもしれないが、非常に冷徹な感覚と、新しい思想をもっておった女性であったということと、非常に美しい女性であったということを再現出来ればということので今度つくったのです。

今日午後3時の除幕式が終れば、内川端で

皆さんの目に稲舟の像が触れることになりませんが、機会を失して御覧いただければ有難いと存じます。

この度川端康成先生も稲舟に関心をもたれて或は除幕式にお出になるのではないかということも考えられましたが、都合でそれは出来なくなりました。

田沢稲舟という女性が、如何に自由奔放の女であったかということは、樋口一葉の文章の一節にも見られます。みさと恋愛をし、最後には一年間結婚生活を送るのですが、樋口一葉という女性は、明治の女流文筆家としては極めて優れた作家ですが、その樋口一葉が稲舟を称して、彼女ほど自由に恋愛が出来たら、自分はこの上ない仕合せである。自分の恋愛は片想いであって相手に通せず、相手からもそういう愛を受けることが出来ないと言って嘆き、みさと稲舟の恋愛を非常にうらやましがったという文章を残しております。一面そういう自由奔放な考え方があったようです。

私が非常に面白いと思うのは、そういう養子候補が2人もいて、2人とも稲舟と一緒にさせようとして全部失敗に了ったことです。父母の言も聞かずに東京に出て、革新的思想をもって文筆生活に入るということ、誠に素晴らしい女性だということを我々が極極まらないのであります。ですから若しそういう女性が現代に居るならば、芸術というものに生きる人間であれば、もっともひかれる女性の典型的なものでなかったかと思う訳です。

そこで文学とか、我々が従っている美術の世界というものは、すべて芸術の世界ですがこれは宗教とともに心がすべてだと思えます。それを支配するのが宗教であり芸術であると私は理解しております。芸術と宗教は非常に似通って近いものです。

(それから宗教特に仏教について高邁な識見の発表がありました割愛いたします)

幹事報告

会報到着 郡山東RC、石巻東RC

例会変更

鶴岡西RC	5月7日	PM 12.30
	加茂岸壁(船上例会)	
郡山RC	5月14日	牡丹会館
	(須賀川牡丹園内)	
東京西北RC	6月7日以降	
	京王プラザホテル	
	(新宿区西新宿2-2-1)	
東京大井RC	6月1日	
	高輪プリンスホテル内プリンス会館	
	(港区高輪3-13-1)	

チャーターナイト案内

福島南RC 6月27日(日)

PM1.00~3.00 登録料¥ 4.00